

東西南北県人往来①

全国で活躍する県人の皆さんが集う各県人会の成り立ちや様子、あるいはふるさと徳島の懐かしの思い出などを、各県人会ごとに自由に語っていただく新コーナー。まずは東京徳島県人会からスタートです。

遠き思い

「ふるさととは遠きにありて」というが、今でこそ交通機関やマス・メディアの発達などによって、東京は徳島県人にとって実質的に、また感覚的にも、そう遠くはない都会になっている。また、いわゆる高度成長によって国民所得が大幅にアップしたことも、その距離感を短縮した大きな要因といえることができる。しかし、私が大学に入った昭和29年（1954）ころは、東京は空間的にも経済的にもかなり遠く、そう簡単には行きたるような所ではなかった。まして、明治や大正のころには、進学や就職などで東京に出て来て暮らすことは

石井正則

（東京徳島県人会 常任理事）

三好市池田町出身。池田高校から東京大学法学部へ。昭和33年三井鉱山（株）入社、人事部長、本店総務部長、取締役九州事務所長、平成3年常務取締役役に就任。平成7年から平成11年までサンコーコンサルタント（株）代表取締役社長。三好同郷会会長。



なかなか大変であったと思われる。この「遠き思い」が東京での県人会や同窓会、あるいは郡単位の同郷会などが生まれた大きな要因になったと思われる。

記録によると、明治16年（1883）には、すでに東京で徳島青年会が発足し、その後徳島学生会に改称して活発に活動し、機関誌なども発行したりしている。また、その学生会が母体になって、大正11年（1922）には徳島県帝大会が発足し、それが現在の東京大学徳島県人会に引き継がれている。大正15年（1926）には東京徳島県人会が発足している。そのほかにも、古くからの同郷会としては、私の郷里の、かつての三好郡出身者による三好同郷会が明治44年（1911）に創立さ



れて、今日まで存続している。その他、各旧制中学・高校の同窓会など東京には徳島県人によるいろいろな同郷の会があり、それぞれ郷土精神で結ばれた会員たちのお互いの親睦と助け合いなどにも大いに貢献して来ている。これらの会の多くが戦中戦後の動乱を乗り越えて今日まで続いているのは、やはりそのベースに同郷の人々の「遠いふるさとへの思い」があり、また、その運営に携わってきた郷土精神に富んだ多くの

有志の方々の尽力があったことも忘れることはできない。これからも徳島県人会をはじめとする同郷の人々による各会が、それぞれ会員たちの親睦と助け合いなどの機能をより発揮して行くことを祈念する次第である。

Memo 東京徳島県人会

首都圏の徳島県出身者や徳島県にゆかりのある方々の相互の親睦を図る目的で大正15年1月に設立。現在の会長は株式会社小松製作所顧問の安崎 暁氏、理事長は弁護士吉本修二氏。会の主な活動は、例年秋に開催する「東京徳島県人会総会・県人の集い」。ふるさと徳島の最新情報の紹介、懇親パーティー、阿波おどりのアトラクション、さらには徳島県ゆかりの芸能人の出演など多彩な内容で、毎年約250人程度の会員の方々が出席し、大いに盛り上がり、在京県人の方々に好評の集いです。

平成22年度「総会・県人の集い」の開催は次のとおりです。

●日時／平成22年10月9日（土）11:30～14:30 ●場所／椿山荘（東京都文京区関口2-10-8）TEL.03-3943-1111 ●連絡先／徳島県東京事務所（〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館14階）TEL.03-5212-9024



東京徳島県人会会長
安崎 暁氏